

順位

私の中学時代の話です。だいぶ昔のことなので、今とは事情が少し違うかもしれませんが。中学3年生の7月下旬に、県大会が終わり、いよいよ本格的に受験生となりました。とはいっても、気持ちの切り替えができるわけでもなく、ずいぶんと時間を無駄（むだ）にしてしまった夏休みとなりました。

8月下旬から2学期が始まりました。さすがに「これではまずい」と思うようになり、少しは受験勉強をするようになりました。ところが、順位が上がっていきません。上がるどころか少しずつ下がっていきました。

あの頃は、毎月、実力テストのようなものがありました。ということは、毎月、結果が出るわけです。「それなりに勉強しているはずなのに、おかしい」と思いました。しかし、よく考えてみると、自分としてはがんばっているつもりでも、他の人がもっとがんばっていれば、自分の順位は下がっていくわけです。順位とは相対的（そうたいてき）なものです。「絶対」の対義語（たいぎご）、すなわち、反対の意味の言葉が「相対」です。

毎月、少しずつ順位が下がっていくと焦（あせ）ります。だからといって、猛（もう）勉強をするわけでもありません。順位ばかり気にしているわりには、「数学の問題集を毎日2ページずつ必ずやる」「毎日、3時間は勉強する」といった絶対的な目標がなかったのだと思います。目標が自分の中になかったのです。自分が目指す姿が明確ではなかったのです。だから、がんばる、努力することができなかったのだと思います。

あの頃は、志望校（しばうこう）ごとに志望者数と自分の順位が出ていました。例えば、定員（ていいん）が240人で、志望者が380人。自分の順位が380人中、180番といったぐあいです。240人の定員内に入っているうちは「まだ大丈夫」と思っていたのですが、250番となると、かなり焦ります。「このままでは入れない」という思いが、勉強のモチベーションとなります。いよいよ尻に火が付いた状態です。

しかし、これは本当の姿ではありません。あるべき姿ではありません。順位という人との比較にばかり意識がいており、自分からという思いや覚悟が足りません。きっと、こういった勉強は身にならないのだと思います。自分で決めたことを必ずやるといった方が、はるかに力がつくのだと思います。

順位は、努力した結果を見る“めやす”にはなると思います。数字として出てくるため気にはなります。だからといって一喜一憂（いっきいちゆう）する必要はありません。自分で決めたことを毎日やっていく方が大切です。相手との比較ではありません。自分の問題です。